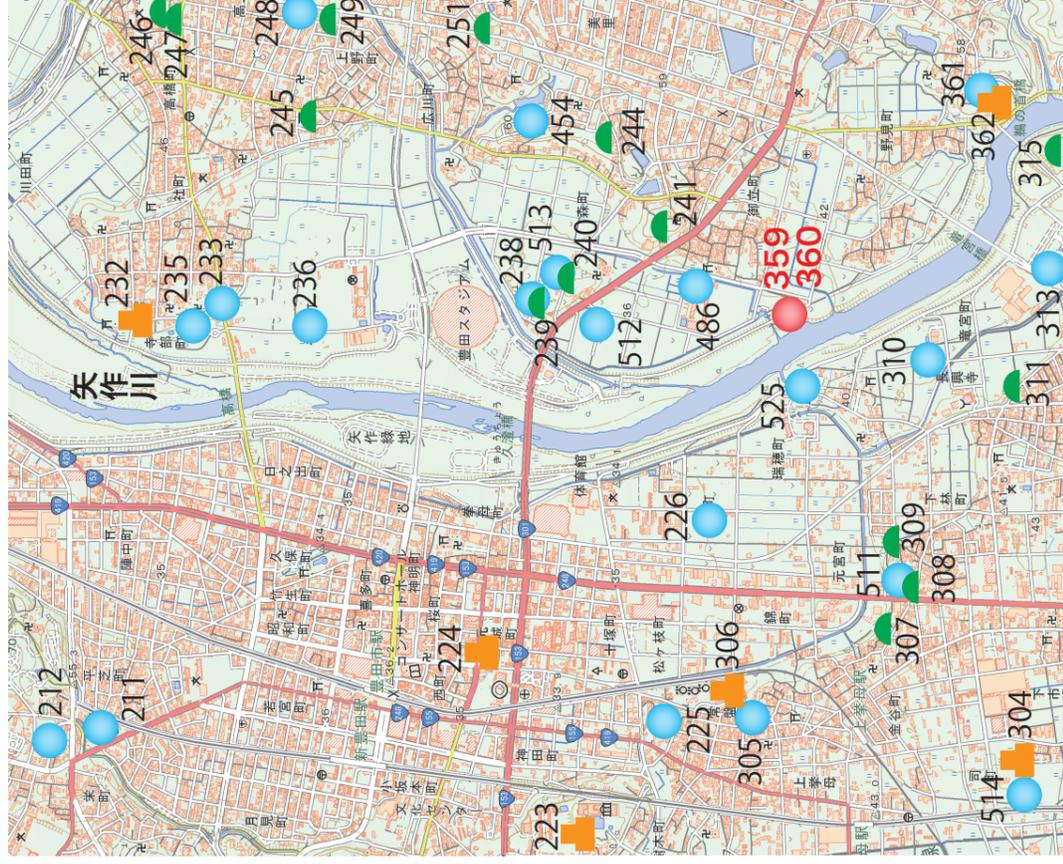


# ごでら 牛寺遺跡

## 発掘調査地元説明会資料

令和4（2022）年1月15日（土）10:00～

- 211 霊岩寺 A 遺跡 (弥生)
- 212 霊岩寺 B 遺跡 (旧石器)
- 223 孝母 (七尾) 城跡 (近世)
- 224 孝母 (松) 城跡 (近世)
- 225 常磐町遺跡 (縄文・古墳)
- 226 瑞穂遺跡 (古代～中世)
- 232 寺部城跡 (中世～近世)
- 233 寺部遺跡 (縄文～近世)
- 235 勸学院文蔵寺 (古墳～古代)
- 236 千石遺跡 (縄文～中世)
- 238 曾根遺跡 (縄文)
- 239 八柱社古墳 (円墳・径 38m)
- 240 寺下古墳 (円墳・径 15m)
- 241 白塚古墳 (円墳・径 22m)
- 244 白草古墳 (円墳)
- 245 神明社古墳 (円墳・径 20m)
- 246 池ノ根 1 号墳 (円墳)
- 247 池ノ根 2 号墳 (円墳)
- 248 高橋遺跡 (弥生～古墳)
- 249 高橋遺跡 1 号墳 (円墳)
- 251 山ノ神古墳 (円墳・径 13m)
- 304 長田館跡 (中世)
- 305 敷下遺跡 (縄文)
- 306 衣 (金谷) 城跡が (中世)
- 307 金谷大塚古墳 (円墳)
- 308 稲荷塚古墳 (円墳)
- 309 稲荷塚古墳 (円墳)
- 310 森下遺跡 (縄文・中世)
- 311 供養寺古墳 (円墳)
- 313 秋葉遺跡 (縄文)
- 315 内山 2 号墳 (円墳?)
- 359 牛寺遺跡 (縄文～近世)
- 360 牛寺廃寺 (古代)
- 361 丸根遺跡 (縄文・古墳・中世)
- 362 丸根城跡 (中世)
- 486 古城遺跡 (古墳～中世)
- 511 内山畑遺跡 (中世)
- 512 古城北遺跡 (古墳～中世)
- 513 北海道遺跡 (古墳～中世)
- 514 辰田遺跡 (旧石器)

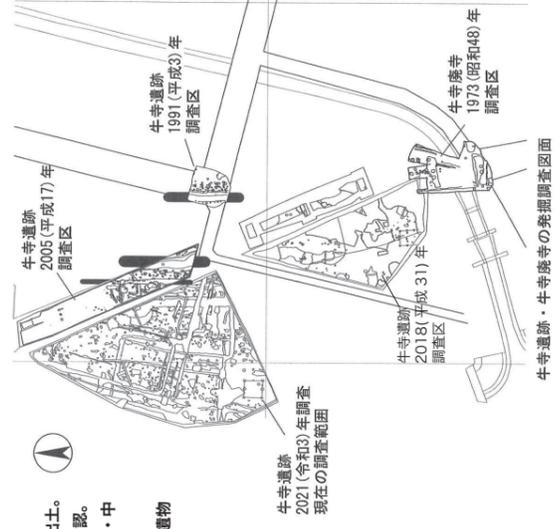


### 牛寺遺跡と周辺の遺跡分布図 (国土地理院「豊田北」・「豊田南」より作成)

※遺跡の番号は愛知県文化財マップに準ずる。ただし遺跡番号の冠番号 630 (豊田市) は省略して表記。  
例えば牛寺遺跡は 630359 を省略して 359 と表記している。

### 牛寺遺跡の発掘調査歴

- 1973 (昭和 48) 年 6 月 豊田市教委による牛寺廃寺の調査 (200 m) 8 世紀代の古瓦などが出土。
- 1991 (平成 3) 年 10 月 豊田市教委による牛寺遺跡の調査 (20 m) 中世の欄列と溝などを確認。
- 2005 (平成 17) 年 6～7 月 愛知県埋文セによる牛寺遺跡の調査 (1,300 m) 縄文・弥生・古代・中世の遺構と遺物を確認。
- 2018 (平成 30) 年 12 月～ 愛知県埋文セによる牛寺遺跡の調査 (800 m) 古代・中世の遺構と遺物を確認。
- 2019 (平成 31) 年 2 月 愛知県埋文セによる牛寺遺跡の調査 (2,800 m) 現在調査中。
- 2021 (令和 3) 年 10 月～
- 2021 (令和 4) 年 3 月



牛寺遺跡・牛寺廃寺の発掘調査図面



公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-7  
TEL 0567(67)4163 【調査課】  
HP <http://www.maibun.com/>  
Twitter [https://twitter.com/aichi\\_maibun](https://twitter.com/aichi_maibun)  
Facebook <https://www.facebook.com/maibunaitchi>

【調査支援】 株式会社アコード 名古屋営業所  
HP <https://www.a-accord.co.jp>

〒498-0031 愛知県弥富市平島町大脇 1 2 - 3 - 20

# 牛寺遺跡21A区全体図



① 030ST (壁面上部が被熱する遺構)



② 107SD (中世の遺物が多量に出土)



③ 153SK (縄文時代晩期の土器が出土)



④ 292ST (埋土に焼土・炭化物・骨片含む)



⑤ 095SX (中世の性格不明な大型土坑)



⑥ 411SX (中世の竪穴状遺構)



⑦ 003SD (中世の溝 土器皿多数出土)



⑧ 480SB (大型掘立柱建物)



⑨ 370SI (弥生時代後期の竪穴建物)

牛寺遺跡の調査は10月下旬から開始しております。この遺跡は過去4回の発掘調査が実施されており、縄文・弥生時代、古代～中世の遺構・遺物が知られております。今年度の面積は2800㎡ですが、本日の説明会では、このうち1700㎡(A区)を対象としております。今回の調査区では、中世以降の遺構が中心となりますが、これを遡る縄文時代晩期の土坑153SK、弥生時代後期の竪穴建物370SIなども検出されております。中心となる中世以降の遺構群は、溝140SDによる東西10m、南北30mの区画が目立ちます。区画内には直径30cm前後の土坑(柱穴か)の密集域があり、掘立柱建物群が存在した可能性が考えられます。区画の南側にもやや大型の掘立柱建物480SBが確認されました。調査区の北側と東側では焼土・炭化物・骨片などを含む土坑(292ST・779STなど)が確認されています。葬送に関わる遺構と想像できますが、土坑292STは壁面が被熱しないため火葬後の骨灰を納めたのかも知れません。一方、土坑030ST・235ST・765STは壁面の一部が被熱しており、火を焚いたものと考えられますが、炭化物・骨片は確認されていません。